



時報文藝

Xと私 麻井虞美
日本繪具でこかしたカンパス
の春
俺は泣き乍ら歩つたよ
乳のような若芽の香にむせて
西日に照されて泣いてゐた
飢え切つた盲目の子が
若いおれの肉を食ひ切つて
あくこごなしに叫ぶのだ
おまへの悲しみは俺の涙
おまへの涙は俺の血
あゝ俺のむねは冷たい
發動的に足はぬれた土をけり
清い路をけがしてゆく。

雑詠 北山牧村
何んとかしなないと氣が狂ひそ
うだ、此んな生活を續けてゐ
ては耐れない、今迄の意けた
分もこれからはミツチリやる
と力む弟、心にもなきお世辭
など云ふ人をさげすみの眼も
て見てさし吾が心にもなきお
世辭なごスラ〜といふこと
何時か吾も覺りき、今三年を
うだ、是から今三年辛抱すれ
ば生活も樂になる、形式にし
ゑられることを意識する、此
頃の吾腹立しかり、戀なんて
つまらぬ遊戯だ、今の中よし
てしまへど失戀した男。

鼻の藥「チクノール」
平五 山野邊藥局

胃腸 専門 村松
十二指 腸胃病
淋病 婦人病
梅毒 皮膚病
院醫科 (七〇一話電) 町南町平

こうまで安いのは
加納活版所の印刷物

春

- 一九三〇年の春に
ふさはしき
◎背 廣……………一〇〇〇ヨリ
◎レンコート……………七〇〇ヨリ
◎パーバリー……………八・五〇ヨリ
◎トンビ……………七・五〇ヨリ
◎モチリ……………三・五〇ヨリ

店服洋やかな
三〇二電 二平

凡てナンパーワンたる事に
努力致してまいります

コンパル

洋食、喫茶、宴会、仕出し
平町 電六六六番

滋養、強壯劑として愈々好評
偉大なる薬酒「栗守酒」
朝の一盃は精力の源泉、晩の一盃は睡眠の助力

栗守酒特約店 大平屋薬店
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目一電四六二

外科 一般外科 内臓外科
性病科 X光線科

安齋外科醫院
元赤心堂病院跡
電話四七五

日本浪界の神童子天才兒來る
日本一の君團子當年十一才
日本一の桃太郎當年十一才
補導 東洋軒雷右衛門師
外大家數名出演
當る五月九日・十日
午後五時花火合開場
到る處に前賣割引券の發賣部有升

専門内科一般

内科ハ何デモ診療致マス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五(電話七二二番)

川井内科診療所
醫學士 川井重子
女醫 川井安子

初夏 サロンの新装

四月十日ヨリ
樽詰生ビール並にタンク入りソーダ
水の用意が出来ました
ソーダフアンテン設備完成
カップ一杯……………十五錢
ジュッキ一杯……………五十錢
ドーゾ散歩がてら御来店を……
平町田町通り

美味で きもちよい サロン
評判の
公休日は毎月第三日曜 電話三五二番

内科 小兒科 (入院應需)
花柳病科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平四七五〇七番

故妻鏡子送葬の際に遠路の處態々
御會葬被成下且つ御鄭重なる御香
奠を賜はり御厚志の段奉深謝候
一々拜趨御禮可申上等の處不取敢
乍畧儀以紙上御挨拶申述候
昭和五年五月六日
福島縣石城郡平町田町六四

市原卯太郎
外親戚一同

外科一般

醫學博士 藤本順

産婦人科

長木村寅次郎
平町新川町(電話一六四)

病室完備
入院隨意
木村病院

新入學期と時計
同時計は大谷

器械部戰線異狀なし
優良なる器械で安く

殊に學生は元價提供
電話一九三

大谷時計病院

吉田眼科病院
電話六八番

◎免狀所有看護婦入用